

## 総合計画審議会 第1回安全・安心部会会議要旨

- 1 日 時 令和2年9月3日(木) 10時00分～12時00分
- 2 場 所 議会棟1階 第一委員会室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 概 要 ・副部会長に大西委員を選出  
・各分野における「現況と課題」、「施策の展開」について意見交換

### 6 審議会の内容

- (1) 開 会
- (2) 市長政策部長あいさつ
- (3) 部会委員の紹介
- (4) 議 題
  - ① 副部会長の選出について
  - ② 各部会の検討分野について
  - ③ 各分野における「現況と課題」、「施策の展開」について
  - ④ 総合計画の策定スケジュールについて
  - ⑤ その他
- (5) 閉 会

### 【主な意見】

(12-①地域福祉の推進)

#### 《委員》

- ・昔は専業農家など自営業の人が多かったが、今は自営ではやっていけなくなり、サラリーマンの方が多くなった。そのため若い人は日中、仕事で地域におらず、土日・夜間などの限られた時間しか動けないことが多くなっている。その結果、地域活動の中心は60代になっているが、高齢者雇用が進んだことで60代も活動に参加しにくくなっている。以上から、活動の担い手が減ってきている状況だ。
- ・親世代と同居しない子の世代が増えている。特に周辺地域でその傾向が強い。
- ・特定の方に負担が集中している現状を打破するのは簡単ではない。担い手を増やすためには、(いきなり深い取り組みではなく)まずは広く、薄く、ボランティア的な活動から参加してもらうことが必要ではないか。その中で、興味や関心を持った方に取り組みを深めてもらえばよいのでは。

#### 《部会長》

- ・参加しやすい環境を作ることが重要。
- ・昔に比べ生活が便利になったことで、それだけ地域で協力し合う必要がなくなってしまったように感じる。その中で共生意識の醸成をどのように図ることができ

るかが課題である。

#### 《委員》

- ・自分はボランティアしているが、楽しんでやっている。何かをやることで自分のプラスになり、生きる元気にもつながる。ただ、体験しないとそれが分からないので、なかなか他の人に伝えるのは難しい。

#### 《委員》

- ・コロナ禍で人とのつながりが難しくなっているが、ボランティアを勧めても知らない人と一緒にやろうとはなかなかならない。親しい人から、楽しんでやっていると誘いがあれば参加しようと思ってくれるのでは。
- ・人と人とのつながりが大事である。どう自分の事としてボランティアを考えてくれるか。いい方法があればよい。

#### 《部会長》

- ・キーワードの「ひとの力」の個と個のつながりをどうするかが重要である。
- ・今は、ネットでつながれる社会だが、高齢者は敬遠することも多い。高齢者だからできないという考えを払しょくしないといけない。

#### 《アドバイザー》

- ・若い人は決してボランティアに興味がないわけではなく、ボランティアについて知れば、参加する人もいると思う。若い人は、分からないことをネットで調べるので、ネットで情報が入手できたり、ボランティアしたことを（ネットにあげるなど）可視化できると広がりが出てくるのでは。
- ・5年後には、現在の60歳が65歳に、65歳が70歳となり、IT（デジタル）に強い高齢者も増えてくる。
- ・デジタルを使えない人をケアする、デジタルツールを使って楽しさを知ってもらう方法を出していくことが大事だと思う。

#### 《部会長》

- ・デジタルに対する苦手意識を取り除くのが重要。大学で遠隔授業を始めたときは、十分な設備もなかったもので、ある設備だけで工夫して実施した。現在は、対面授業も行っており、今後、遠隔とのハイブリッドでどのように取り組んでいくかが課題となっている。

#### 《委員》

- ・高校までは学校で設定されたボランティアをしていることが多いが、大学生はメリットを追求するので、ボランティアをしてもらうには、（詳しい内容など）情報を開示することが重要である。

- ・今の学生は昔よりも勉強しており、アルバイトもしているので、ボランティアの依頼を処理しきれない場合がある。統一的なボランティアのシステムの構築をする必要がある。
- ・ボランティアを受けたい団体等も学生を無料の人足と思っている場合があるので、そういったボランティアには学生は二度と参加しなくなる。

#### 《部会長》

- ・ボランティア活動を盛り立てる教員がいるのといないとでは全然違うので、ボランティアコーディネーターの存在は重要である。そうした仕掛け人の人材育成のためにどのようなシステムを作るのか。
- ・YouTube等を使って情報を開示するために、知識や技術を使える人材を育てることも重要である。

#### (13-①生涯を通じた健康づくりの推進)

#### 《部会長》

- ・様々なデータより、ボランティアを積極的にする人は健康寿命が長くなる。運動のみしている人と社会活動のみしている人の寿命を比べると社会活動のみしているの方が長かった。社会活動をすることが健康づくりにつながる。

#### 《委員》

- ・「手をつなぐ育成会」は知的障がい者のボランティア団体であり、全国にあって各県には市の組織がある。昭和34年に熊本県で結成されたが、結成当時は知的障がい者を持つ者は「はずかしい」という時代背景があり、このような団体名となった。当時と名称を変えていないのは、当時の人たちの想いを継承していくという考えからである。
- ・資料で「障害者」ではなく「障がい者」と記載されている市の対応は大変ありがたい。(漢字だと「害」につながる)
- ・我々の団体で旅行に行く場合、両親ともに多忙な家庭、当人以外に子どもがいるなど、親が付き添えないことが多いため、学校や社会福祉法人などにボランティアを依頼し引き受けていただいているが、依頼した人数が集まらないこともある。

#### 《アドバイザー》

- ・(企業におけるボランティアとして) 当社では、中心市街地の清掃活動をしているが、自分たちでやろうという気持ちが生まれることが大事だと考えている。
- ・山町筋に住んでいるので御車山に携わっているが、5月1日の祭だけでなく、準備や神事など1年間かけて行事があり、山町の人たちにとっては、生活の一部になっている。今年は、コロナ禍で祭が中止になったため、生活リズムが狂ってし

まったせいで、町内の中には、調子がおかしくなったと言う人もいた。

- ・御車山の準備などで顔を合わせ、自然にお互いの情報交換を行うことで、例えば災害の場面になっても、横の連携が生まれる。町内で 10 人程度の LINE グループを作っているが、10 人であっても家族を合わせたら大きなつながりになる。少しずつでもやっていくことで人のつながりが生まれるのではないか。

#### 《部会長》

- ・こうした動きが水平展開し、口コミや広報などで他地域にも広がっていけばよい。

#### 《委員》

- ・自分は小学校の頃からボランティアをしており、それが原点。活動で得た収益で必要とする子どもたちにプレゼントをしている。
- ・ボランティアに参加しようと思っても、入りづらかったり継続しづらかったりするのではないか。
- ・各団体でボランティアを募集するだけではなく、ボランティア育成のための講習会（それぞれの分野の知識を教える）を実施しては。

#### 《部会長》

- ・そうした講習会があるという情報発信をどう行っていくのが課題になる。

### (16-②多文化共生社会の推進)

#### 《委員》

- ・高岡市に外国人が増えてきたことにより、課題も出てきた。課題の一つが防災。外国人は日本が災害大国であることを知らないことが多いため、自国が災害のないところだと防災の意識が薄く、対処の仕方を知らない人が多い。
- ・自分は防災士の資格を取ったが、今後どのように対処の仕方を発信していくか考えているところである。
- ・昨日、地震があったが、知人がパニックになっていたので、LINE で対処の仕方を教えた。地域の中で、町内レベルで外国人とつながりを作ることが大事。外国人が地域と関わり、お互いを知ることができれば、災害時にお互いの命を救い合うことができる。

#### 《委員》

- ・地域の人材をどう掘り起こすのが重要である。ボランティアの手法として「スキルストック」というものがあり、人の話を聞くとか、小さなことからでも、自分にできることを登録して必要が生じたときにマッチングを行うものである。多様化する課題に対するアプローチと、予め自分にできるボランティアを登録するアプローチを、同時並行でいいので取り入れることはできないか。

### 《アドバイザー》

- ・「スキルストック」について、システムとして細かく設定を固めてしまうと、入力や登録が面倒に感じる。個人的には、AIやIT技術を活用し、登録したい人が自由に記載したものを判断するような仕組みが必要と感じている。
- ・高岡にも、コードフォータカオカ\*とあって、ITを活用した仕組みを作るボランティアの方々がおられる。

※高岡やその周辺地域の問題（地域の魅力や生活情報の発信など）をITとデザインの手で解決していくことを目指しているコミュニティのこと

(16-①市民が主役の地域づくりへの支援)

### 《委員》

- ・自治会や地域への役割などが記載してあり、大変有難い。今後は、小規模多機能自治に取り組んでいくことも良いと感じている。
- ・地域を活性化させるためには、小学校単位で枠組みを作るのが良い。中学校単位では、エリアも広く人と人との結びつきが少ないが、小学校単位は、顔見知りの人がわかるギリギリのエリアだと思う。
- ・行政は、何年かすると異動により担当者が変わるので、市が地域の実情を把握できておらず、地域とのつながりが薄いため、地域住民の参加を具体化することが難しい。縦割りのものを横につなぐのは、現場（地域）しかない。
- ・各地域で、受け皿（枠組み）となるような総合的で持続性のある組織が必要である。市も政策を進めやすくなり、各地域も自分たちでやりたい事を決められるので、選択肢も増え、やりがいも出てくる。

(その他)

### 《アドバイザー》

- ・中間総括でも、例えば開催数や利用人数といった計画しやすい数値のまちづくり指標は達成率が100%を超えているものが多いが、不安・負担度のような、相手の心に訴えかけ、行動を変容するような施策に関する指標の達成率が低くなっており、共創の意識が広がっていない表れではないかと思う。
- ・学生に、ボランティアを進めているが、モチベーションがないとやらない。アルバイトとかでお金を得るというのもモチベーションの1つになると思うが、それだけでなく、カッコいいとか、楽しいといったイメージも大事である。有益なものが身につく、社会の役に立つという意識を共有していく必要がある。また、大学生だけでなく、一般の方々にもどうやって意識を持ってもらい、関わってもらうかが重要である。
- ・実際ボランティアをすると、やってよかったと思う人が結構いるのではないかな。

共創の意識を醸成していくことで、地域人材の育成につながる。

#### (14-①環境保全意識の高揚)

##### 《委員》

- ・地球温暖化や海洋プラスチックゴミなどが課題だが、自分には関係ないという人が多い。今すぐ行動してもらうためには、わかりやすいメッセージや打ち出しで、人の心をとらえる必要である。市も環境基本計画を策定しているが、ホームページを見ても、調べないとわからない。
- ・実践しているかは別として、3R<sup>\*</sup>や分別のことは知っていると思うが、富山県は水を出しっぱなしにしても豊富なため、あることが当たり前と思っている。地球全体としてみた場合、使える水の量の割合は非常に少ないので、水に恵まれていることを認識して、水を大切にすることを意識が必要である。

※廃棄物の発生抑制 (Reduce) ・再使用 (Reuse) ・再利用 (Recycle) のこと

##### 《部会長》

- ・高岡市が弱いと言われていたキャッチコピーをどう作っていくかが重要である。

#### (17-②高度情報化の推進)

##### 《アドバイザー》

- ・この施策だけデジタル関連の専門用語が多いが、デジタル化は、様々な施策にも関係してくると思っており、全ての施策とは言わないが、施策のベースにデジタル化という考えがないといけない。令和4年度からの計画であれば、ほとんどの施策にデジタル化は関連してくる。デジタル化に対応することで、施策をどのように推進し、効率化を図るのかを検討していく必要がある。